



8/6水 14:20~15:50

文学部

英語で発信する日本文化

現代英語学科

この授業では日本では当たり前だが、海外では驚かれる、カッコいいと思われる、日本の文化と技術の特徴について学びます。そのために、NHKの番組「Cool Japan 発掘! かつていいニッポンー異文化理解から日本文化発信へー」をもとに作られた課題を使用し、様々なトピックをめぐるディスカッションとグループワークを行います。

8/20水 10:20~11:50

文学部

学校教育の現状と子ども理解の方法を学ぼう

児童教育コース

令和時代の学校ではどのような教育が行われているのでしょうか。学校教育の現状について解説するとともに、多様な子ども達を理解する方法としてレクリエーションを行い、心を通わせる方法を体験します。
また、現在児童教育学科児童教育コースに所属している学生とのパリエティークを通して、教員免許を取得するための大学での学びについてお伝えします。

7/22火 10:00~11:30

文学部

声の届く保育

幼児保育コース

私たちの今の暮らしでは、電子メディアを介して伝えられる情報を受け取り、読み解くことが「学び」であると考えられているのではないのでしょうか?でも、赤ちゃんや幼い子どもは周囲の大人の生の声で語りかけてもらうことを、体で受け止める生きた糧として蓄え、自分のことを育てています。昔から伝承されてきた、わらべうたやおはなし、保育の場で実践されている絵本や紙芝居の読み聞かせは、人とことばへの信頼を育て、人生を生き抜く力を育む声の糧です。わらべうたで遊び、先輩たちの読み聞かせを聞くことで、子どもの目線での「保育」の在り方を考えます。

7/29火 13:00~15:00

文学部

つかってみよう、「やさしい日本語」!
- 多文化共生社会を歩むために

文化交流学科

「やさしい日本語」は外国人、高齢者や障害のある人など多くのひとに情報を伝えるためのわかりやすい日本語です。この講座では、作り方のルールを学び、普段何気なく使っている表現を「やさしい日本語」に変換する方法を身につけます。きっと、皆さんが多文化共生社会を歩みゆくために役立つツールになるでしょう。

8/7木 13:00~14:30

生活科学部

多様化する子どもの危機と支援のための福祉制度
- ヤングケアラーと子どもの食 -

心理福祉学科

子どもを取り巻く危機は、様々な対策が取られているにも拘わらず増加の傾向にあります。児童虐待やいじめをはじめヤングケアラー問題や子どもの貧困、食の危機などです。本講座では、これらの子どもへの危機と社会福祉制度、支援者(ソーシャルワーカー)を概説します。

8/8金 10:15~15:30

生活科学部

管理栄養士プレ講座

食物健康科学科

- ①野菜を使った減塩食・防災食を作る
野菜や豆を使った調理を行います。減塩食の一品と嚙下食にも展開できる防災食を一品作ります。
- ②病院管理栄養士の仕事をのぞいてみよう!
・講義(病院の栄養士の仕事知ってますか?)
・患者さんの献立を考えよう(食育 SAT を用いた演習)
・高齢者向け嚙下調整食の試食

受講料1,000円(釣銭の無いようお願いします)
筆記用具・調理実習用エプロン・三角巾(バンダナ可)
内履き(サンダルやスリッパは不可)。

8/8金 13:00~15:00

看護学部

身近な看護を体験してみよう!
看護師を目指す高校生のための看護学入門

看護学科

看護は人々の健康と生活の質向上を目指すやりがいのある仕事です。患者さんの生命をあずかる職務を果たすためには、専門的な知識と技術を積み上げて、適切に実践する能力が求められます。今回の講座では、「個人防護具(PPE)」と「血圧測定」の体験を通して、身近な看護を学びましょう。看護師に必要とされる「役割」と責任「看護を学ぶ楽しさ」にふれる機会ですので、是非ご参加ください。

8/5火 10:00~11:50

経営学部

AI共生時代に求められる人材とは

経営学科

現在、CHATGPTをはじめとする生成AIが社会的に大きな注目を集め、様々な議論がされています。しかし、その多くは「どのように仕事を効率化するか」「AIに仕事を奪われるか」といった技術的な、または近視眼的な話が多く、AIが人間の知的パフォーマンスにどのような影響を与え、私たちにどのような恩恵と脅威をもたらす可能性があるかという本質的な視点に立っていません。講座終了後、受講生が「自分がどうすれば良いか」といった指針を得られるような具体的なポイントを交えながら、AI共生時代における人間の可能性、求められる人材についてお話しします。

8/5火 10:20~14:10

未来教養学環

大学図書館で、大学の学び(課題解決)を体験しよう

大学の学びは、高校までのそれとは大きく違い、あたえられた課題を行うだけで終わるものではありません。専攻する分野(学部)にかかわらず、一人ひとりが課題をみつけて、答えをもとめていくこと、すなわち「課題解決」が、その基本にあります。「課題解決」のためには、教員や友人と議論することが有意義ですが、その前提として、まずは自分で調べて(必要な情報や材料を集めて)、自分の頭で考えることが必要です。大学図書館は、その「自分で調べて考える」ための重要な場所です。大学生になった姿を想像しての本学図書館での実習(資料調査)をふくめて、学びのための大学図書館について考えます。

申し込み・お問い合わせ

申込の詳細はこちらから